

平成 28 年 6 月 18(土)

神奈川新聞

矢沢孝雄議員の一般質問 記事

特養入居指針 見直しを検討

優先順位巡り市

川崎市は本年度、特別養護老人ホームの入居待機者の中でより早期に施設入居が必要な申込者を把握するために入退去指針の見直しも含めて対応を検討する。高齢者の状態や生活環境の多様化が進んでいることに対応する。

17日の市議会本会議で自民党の矢沢孝雄氏(宮前区)の一般質問に対し、成田哲

夫健康福祉局長が「入居申込者の状態像を正確に把握する手法を検討し実態を調査し、真に入居を必要とする方の把握に努めて入退去指針に反映していきたい」と答弁した。

現在の指針は、入所申込者の「要介護度」や「家族など介護者の状況」「認知症の有無」などを点数化し、入居の必要性が高い人が入居できるように入居順位を付けている。ただ、家族が担っているたんの吸引など医療的ケアの有無などは点数に含まれていない。

矢沢氏は「申請者数のうち今すぐ入居したい人の数字でとどまらずに、その中で医療的なケアの有無や症状、必要な処置や虐待の有無など詳細な分析も必要ではないか」と指摘した。

市内の特養入居申込者は今年4月で4822人おり、早期入居希望者は3544人に上っている。